

2017年度国公立大志願状況

河合塾

2017/2/17

国公立大の確定志願者数が15日に文部科学省から発表された。志願者総数は470,786人、志願倍率は4.69倍であった。以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

■志願者数は前年と大きく変わらず

2月1日に締め切られた国公立大一般選抜の総志願者数は470,786人であった。前年比は99.8%と大きな変化は見られなかった。ただし、国立大で募集人員が減少しており、募集人員に対する志願倍率は前年の4.66倍から0.03ポイント上昇して4.69倍となった【表1】。

【表1】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員		志願者数				志願倍率	
		16年度	17年度	16年度	17年度	前年差	前年比	16年度	17年度
国立大学	前期	64,889	64,542	198,011	197,112	-899	99.5%	3.05	3.05
	後期	15,556	14,902	141,267	139,006	-2,261	98.4%	9.08	9.33
	計	80,445	79,444	339,278	336,118	-3,160	99.1%	4.22	4.23
公立大学	前期	15,057	15,291	60,181	61,810	+1,629	102.7%	4.00	4.04
	後期	3,697	3,659	44,852	45,221	+369	100.8%	12.13	12.36
	中期	1,958	1,978	27,333	27,637	+304	101.1%	13.96	13.97
	計	20,712	20,928	132,366	134,668	+2,302	101.7%	6.39	6.43
国公立大学計	前期	79,946	79,833	258,192	258,922	+730	100.3%	3.23	3.24
	後期	19,253	18,561	186,119	184,227	-1,892	99.0%	9.67	9.93
	中期	1,958	1,978	27,333	27,637	+304	101.1%	13.96	13.97
	計	101,157	100,372	471,644	470,786	-858	99.8%	4.66	4.69

※文部科学省資料より ※志願倍率は志願者数／募集人員
※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学は上表には含まれていない

国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は258,922人（前年比100.3%）と前年並みとなった。センター試験の受験者数が前年比102.1%とやや増加したのと比較すると、国公立大の人気に落ち着きを感じる。

【表2】は、地区別の志願状況をまとめたものである。北海道地区、東北地区、九州地区などでは志願者が減少した一方、都市部では志願者の増加がみられた。南関東地区では、学部の再編を行った東京海洋大や横浜国立大などで志願者が増加したのをはじめ、全体的に志願者増となった大学が目立った。近畿地区でも志願者数は昨春より千人以上増加した。神戸大での大幅な志願者増に加え、今春より公立大として入試を実施する福知山公立大が加わった影響もある。四国地方では107.0%と増加率が高くなったが、徳島大（理工学部）や理学部を改組した高知大（理工学部）で志願者が大幅に増加した影響が大きい。

後期日程の志願者数は184,227人（前年比99.0%）で前年から約2千人減となった。近年難関大を中心に後期日程廃止・縮小の動きが続いている。今春は、大阪大が世界適塾入試の導入に伴い後期日程を廃止しており、さらなる志願者の減少につながった。

公立15大学で実施される中期日程の志願者数は304人増の前年比101.1%となった。今春より公立大として入試を行う山陽小野田市立山口東京理科大が加わったことから、志願者数はやや増加となった。この大学を除くと志願者数は前年比97.5%となる。昨春志願者が大きく増加した釧路公立大、高崎経済大などで、今春は大幅な志願者減となったことなどが要因である。

【表2】国公立大(前期日程)地区別志願状況

地区	16年度	17年度	前年差	前年比
北海道	13,090	12,587	-503	96.2%
東北	21,227	19,882	-1,345	93.7%
北関東	14,819	14,398	-421	97.2%
南関東	51,415	52,890	+1,475	102.9%
甲信越	11,543	11,455	-88	99.2%
北陸	10,725	10,920	+195	101.8%
東海	22,914	23,430	+516	102.3%
近畿	42,755	44,010	+1,255	102.9%
中国	23,502	23,576	+74	100.3%
四国	11,709	12,528	+819	107.0%
九州	34,493	33,246	-1,247	96.4%

※文部科学省資料より
※北関東：茨城・栃木・群馬 南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

■系統別では「法・政治」「経済・経営・商」「工」学系で志願者が増加

【表3】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。

学部系統の人気は、過去2年文系への回帰が続いていた。今春は、「文・人文」「社会・国際」の志願者数は前年並みにとどまる一方、「法・政治」「経済・経営・商」ではさらなる人気の高まりが感じられるなど、系統による差がみられた。

理系でも、「理」「農」で志願者が減少したものの、「工」では志願者が増加しており、一概に理系不人気とは言えない状況である。

今春は昨春に引き続き学部再編の動きが多くみられ、志願状況にも影響を及ぼした。教育学部では6大学で総合科学課程（ゼロ免課程）が廃止された。「教育-総合科学課程」の志願者数が約3割減となったのはこのためである。

また、学部再編に伴い、学際系の学部・学科が新設されており、「総合・環境・情報・人間」の志願者数は前年比105.1%と増加した。ただし、募集人員も増加したことから、志願倍率は3.66倍から3.63倍とむしろダウンした。

以下に、主な系統について学部再編大の状況を踏まえつつ確認してみよう。

※文中の志願者数・前年比は特に記載がない場合、前期日程を表す

【文・人文学系】

系統全体の志願者は前年比99.5%と前年並みである。法・経済系とは対照的に、文・人文学系の人気は落ちている。ただし、難関10大学の文学部は東京大（文科三類）を除き志願者が増加した。なかでも北海道大、名古屋大、九州大では2割近くも増加した。文系7科目型では高成績層が増加しており、これが強気の出願につながったものと推測する。一方、2年連続で志願者が増加していた北九州市立大（文-比較文化）は前年比54.6%、3年連続で志願者が増加していた信州大（人文）は同81.9%と、志願者が大きく減少した大学もみられた。

【社会科学系（社会・国際、法・政治、経済・経営・商）】

志願者前年比は「社会・国際」で99.4%と前年並みとなった一方、「法・政治」では同104.4%、「経済・経営・商」では同104.4%と増加した。

「社会・国際」学系では志願者数が昨春を下回ったが、学部再編の影響で募集人員も減少した。このため志願倍率は昨年の3.61倍から3.67倍に上昇した。奈良県立大（地域創造）、広島市立大（国際）、北九州市立大（地域創生（通常枠））など、公立大では志願者が増加した大学が目立った。

「法・政治」「経済・経営・商」学系は、全体的に志願者の増加がみられた。難関大では、東北大（法）、東京大（文科一類、文科二類）、一橋大（商、法）、名古屋大（法）、京都大（経済）、大阪大（法）、神戸大（経営）、九州（経済、法）など軒並み志願者が増加した。なかでも神戸大（経営）は前年まで3年連続で志願者が減少していたこともあり、今春は前年比133.0%と大幅に増加した。一方で、昨春入試で志願者が大幅増となった埼玉大（経済（昼間））、公立鳥取環境大（経営）、尾道市立大（経済情報）、下関市立大（経済）などでは、反動により大幅な志願者減となった。

【表3】国公立大(前期日程)学部系統別志願状況

系統	募集人員		志願者数				志願倍率	
	16年度	17年度	16年度	17年度	前年差	前年比	16年度	17年度
文・人文	7,091	7,155	22,904	22,782	-122	99.5%	3.23	3.18
社会・国際	3,538	3,457	12,757	12,680	-77	99.4%	3.61	3.67
法・政治	4,289	4,221	13,123	13,700	+577	104.4%	3.06	3.25
経済・経営・商	8,082	8,327	26,243	27,385	+1,142	104.4%	3.25	3.29
教育-教員養成課程	7,275	7,356	20,188	19,764	-424	97.9%	2.77	2.69
教育-総合科学課程	1,424	915	3,992	2,835	-1,157	71.0%	2.80	3.10
理	5,225	5,157	15,400	14,613	-787	94.9%	2.95	2.83
工	22,429	22,546	67,728	69,806	+2,078	103.1%	3.02	3.10
農	5,436	5,491	17,184	16,784	-400	97.7%	3.16	3.06
医・歯・薬・保健	10,521	10,562	40,012	39,858	-154	99.6%	3.80	3.77
医	3,661	3,691	18,342	18,094	-248	98.6%	5.01	4.90
歯	453	455	1,793	1,842	+49	102.7%	3.96	4.05
薬	750	750	2,836	3,076	+240	108.5%	3.78	4.10
看護	3,869	3,844	11,593	11,274	-319	97.2%	3.00	2.93
医療技術・他	1,788	1,822	5,448	5,572	+124	102.3%	3.05	3.06
生活科学	771	741	2,681	2,426	-255	90.5%	3.48	3.27
芸術・スポーツ科学	1,656	1,577	7,941	7,835	-106	98.7%	4.80	4.97
総合・環境・情報・人間	2,197	2,328	8,040	8,453	+413	105.1%	3.66	3.63
国立計	79,934	79,833	258,193	258,921	+728	100.3%	3.23	3.24

※河合塾調べ（一部大学発表の数値と文部科学省資料の数値と異なる場合は大学発表値を優先）

※系統の分類は河合塾による

[自然科学系（理、工、農）]

志願者数は、「理」学系が前年比 94.9%、「工」学系が前年比 103.1%、「農」学系が前年比 97.7%となった。

「理」「農」学系では、昨春入試で第1段階選抜が実施されなかった東京大（理科二類）、学科を改組する三重（生物資源）など一部では志願者の増加がみられたものの、全国的には志願者の減少が目立った。とくに、山形大（農）61.8%、茨城大（理）76.0%、山梨大（生命環境）69.1%、香川大（農）60.9%などは、昨春入試で志願者が大幅増となったことも要因となっている。

「工」学系は自然科学系のなかで唯一前年の志願者数を上回った。富山大（工）では前年比 213.0%と志願者が倍増した。とくに環境応用化学科を除く全学科で新規実施されるb方式（2次重視）に集中しており、センター試験の国語や理科で思うように得点できなかった受験生が多く出願したのではないだろうか。また、徳島大（理工（昼間））でも前年比 184.1%と志願者が大きく増加した。昨春入試において実質倍率が 1.4 倍と低倍率であったことから志願者が集まったとみられる。このほか、新設の横浜国立大（都市科学）、今春より公立大として入試を実施する山陽小野田市立山口東京理科大（工）、高知大の理学部改組で誕生する理工学部化学生命理工学科が加わっていることも、系統全体の志願者増につながった。

[医療系]

医療系全体の志願者は前年比 99.6%となった。分野別にみると、医学科で前年比 98.6%と志願者はやや減少した。3年連続での志願者減となっており、数年前までの医学科人気は落ち着きを取り戻している。昨春の志願者は東日本の大学で増加、西日本で減少が目立っていたが、今春はその反動から西高東低となった。昨春志願者が2割増となった金沢大では前年比 74.7%、昨春3割増となった浜松医科大では同 69.7%と大きく減少した。このほか弘前大では志願者数は半減して 484 人、志願倍率は 7.8 倍となった。昨春入試の実質倍率は 13.5 倍と高倍率であったことに加え、今春入試より2段階選抜が導入されたことが敬遠要因となった。

看護系は前年比 97.2%と志願者が減少した。敦賀市立看護大（看護-看護）は前年比 38.0%となった。昨春入試において志願者が前年の6倍以上集まり、実質倍率が 10.0 倍の高倍率となったことから、今春は敬遠された。このほか、茨城県立医療大（保健医療-看護）43.1%、長野県看護大（看護）64.5%、滋賀県立大（人間看護）64.6%など、昨春の志願者増加が今春入試の志願者減少の要因となった大学が各地でみられた。

薬学部では前年比 108.5%となったが、人数にすると 240 人の増加にとどまる。富山大（薬）136.1%、金沢大（医薬保健-薬・創薬科学）159.8%、岡山大（薬）153.1%と特定の大学で志願者が増加しており、分野全体の志願者増を牽引することとなった。

■難関国立大の志願状況

【表4】は旧帝大を中心とした難関10大学の志願状況をまとめたものである。

難関10大学全体では、前期日程は727人増（前年比101.3%）となった。これら難関大は堅調な人気を示している。

前期日程で志願者の増加率が高かったのは、東京工業大、一橋大など首都圏の大学である。一方、志願者が増加した大学が目立つなか、北海道大では前年比96.5%、京都大では同98.1%と志願者が前年を下回った。両大学とも理系学部を中心に志願者が減少した。

後期日程の志願者数は、約3千人減となった。大阪大が今春より後期日程を廃止したためである。ほかにも北海道大や東北大などで志願者が減少した。一方、実施2年目となる京都大の特色入試（法）の志願者数は前年比150.3%と大きく増加した。一橋大でも1割ほど志願者が増加した。以下に、大学別の状況をみていく。

【表4】国立難関10大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	16年度	17年度	前年差	前年比	16年度	17年度	前年差	前年比
北海道	5,738	5,540	-198	96.5%	4,181	4,096	-85	98.0%
東北	4,900	4,927	+27	100.6%	1,269	1,156	-113	91.1%
東京	9,278	9,534	+256	102.8%	-	-	-	-
東京工業	3,892	4,167	+275	107.1%	509	523	+14	102.8%
一橋	2,740	2,907	+167	106.1%	1,432	1,577	+145	110.1%
名古屋	4,719	4,723	+4	100.1%	78	60	-18	76.9%
京都	8,029	7,875	-154	98.1%	324	487	+163	150.3%
大阪	7,337	7,397	+60	100.8%	3,097	-	-	-
神戸	5,776	5,971	+195	103.4%	4,113	4,053	-60	98.5%
九州	5,095	5,190	+95	101.9%	2,644	2,755	+111	104.2%
難関10計	57,504	58,231	+727	101.3%	17,647	14,707	-2,940	83.3%
その他大計	200,688	200,691	+3	100.0%	168,472	169,520	+1,048	100.6%

※文部科学省資料より

※「その他大計」は難関10大を除いた国公立大計

[北海道大]

前期日程の志願者は理系学部を中心に減少し、前年比 96.5%となった。ただし、総合入試理系数学重点選抜群の志願者数は、昨春入試で半減した反動から前年比 134.0%と大きく増加した。文系学部では志願者の増加が目立った。なかでも文、教育学部では約 2 割増となっており、増加が顕著であった。法学部では昨春入試で 3 割増となった志願者数を今春も維持した。

後期日程の志願者数は前年比 98.0%と減少した。理、獣医、水産、歯、薬学部など、前期日程同様に理系学部での減少が目立った。ただし、工学部では応用理工系、環境社会工のように志願者が増加した学科もみられた。文系学部ではいずれの学部も志願者が増加した。

[東北大]

前期日程の志願者数は前年比 100.6%と前年並みに落ち着いた。文系学部では、文、法学部で志願者増、教育、経済学部で志願者減となった。いずれも昨春入試の増減の反動とみられる。理系学部では理、農、薬学部など志願者が減少した学部が目立った。ただし医学部では医学科のほか看護学、検査技術科学の両専攻で 1 割ほど志願者が増加した。昨春入試で志願者が大きく減少した反動であろう。

経済学部と理学部のみで実施される後期日程では、両学部とも志願者数は前年比 91.1%と減少した。いずれも 2 年連続での志願者減となった。

[東京大]

前期日程の志願者数は前年比 102.8%と増加した。文理別にみても、文科類では志願者数前年比 102.3%、理科類では 103.1%とともに志願者が増加しており、堅調な人気を維持している。

科類別にみると、昨春入試で第 1 段階選抜が実施されなかった文科一類では志願者数前年比 108.6%、文科二類では同 107.1%、理科二類では同 112.3%といずれも志願者が 1 割近く増加した。一方、昨春入試で志願者が大きく増加した文科三類では前年比 94.7%、理科三類では同 96.5%と志願者減となった。また、理科一類の志願者数は前年比 98.4%と 2 年連続での減少となった。

[東京工業大]

前期日程の志願者数は前年比 107.1%と 2 年連続での増加となった。とくに第 4 類、第 5 類などで志願者が大きく増加した。このほか、2012 年度入試以来志願倍率が 2 倍台で推移してきた第 7 類（生命理工学系）は、志願者数が前年比 116.5%と増加、志願倍率は 3.2 倍となった。大隅良典名誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞したことも注目を集めた一因だろう。

[一橋大]

前期日程の志願者数は前年比 106.1%と増加した。学部別にみると、法、商学部で 2 割近く志願者が増加した。昨春入試で志願者が 1 割ほど増加した社会学部は志願者数前年比 88.4%と減少、志願倍率は 3.1 倍と 4 学部のなかでもっとも低倍率となった。

後期日程の志願者数は前年比 110.1%と大きく増加した。東京大・京都大（特色入試をのぞく）ではすでに後期日程が廃止されていることに加え、今春は大阪大で廃止された影響から、難関大前期日程出願者の後期日程併願先として人気の高まりが感じられる。学部別では、法学部で志願者数前年比 164.4%、社会学部で同 124.4%と増加が顕著である。

[名古屋大]

前期日程の志願者数は前年比 100.1%と前年並みとなった。工学部は 5 学科を 7 学科へと改組し、学部全体の募集人員は 52 名減少する影響から、志願者数は昨春から 153 人減少の 1,748 人となった。唯一募集人員が増加した環境土木・建築学科においても、志願者は昨春より 1 割減少した。また、新設のエネルギー理工学科では、募集人員 36 名に対して志願者数は 73 人、志願倍率は 2.0 倍と低倍率となった。

情報文化学部を発展改組し新設された情報学部は、募集人員が 54 名増の 113 名となることに伴い、志願者数も大きく増加した。既存の自然情報学科では募集人員は前年並みだが志願者数は約 3 割増となった。新設のコンピュータ科学科は募集人員が他の 2 学科よりも多い 53 名だが、志願者数は 119 人、志願倍率は 2.2 倍と他学科よりも低倍率に落ち着いた。

[京都市]

前期日程の志願者数は前年比 98.1%と微減の状況である。学部別では教育学部で 3 割以上の志願者増となったほか、文、経済学部も 1 割ほど志願者が増加した。理、工、農学部では志願者が減少したが、工学部では

建築学科や情報学科などで志願者が増加した。

改組に伴い募集人員が 127 名から 70 名へと大きく減少した医学部人間健康科学科では、志願者数は前年比 105.5%と増加した。志願倍率は前年の 2.3 倍から 4.4 倍に跳ね上がった。

実施 2 年目となる法学部の特色入試(後期日程)の志願者数は、前年比 150.3%の 487 人と大幅に増加した。大阪大が後期日程を廃止した影響が大きい。

[大阪大]

後期日程の廃止に伴い前期日程の募集人員は 5%ほど増加するが、志願者数は前年比 100.8%と前年並みにとどまった。学部別にみると、法学部では法学科の志願者数が前年比 153.8%と増加した。一方、理、工、基礎工学部では志願者が減少した。これら理工系 3 学部は世界適塾入試の導入に伴い募集人員が減少した。加えて、平均点が 20 点以上ダウンしたセンター試験の国語の配点比率が高く、出願を断念した受験生も多くいたのではないだろうか。

[神戸大]

前期日程の志願者数は前年比 103.4%と増加した。とくに経営学部の志願者数は昨春入試より 3 割増と人気を集めている。医学部では、募集人員が 15 名増となる医学科で志願者が前年比 109.1%と増加した。一方、保健学科看護学専攻では募集人員が 10 名増加するが、志願者数は前年比 76.9%と大きく減少した。昨春入試で志願者数が 3 割増となった反動とみられる。

新設される国際人間科学部は、改組前の国際文化、発達科学部と比較して募集人員が 50 名減少するため、志願者も前年の 2 学部計と比較して減少した。ただし、発達コミュニティ学科では、募集人員 54 名に対し志願者数は 268 人、志願倍率は 5.0 倍と前期日程としては高倍率となった。

後期日程の志願者数は前年比 98.5%とやや減少した。しかし大阪大後期日程廃止の影響から、文学部の志願者数は前年比 143.2%、法学部では同 135.3%と大きく増加した。

[九州大]

前期日程の志願者数は前年比 101.9%となった。文、教育、法、経済の文系学部に加え、理、歯学部でも志願者が増加した。とくに歯学部では、志願者数前年比 121.3%と増加が顕著であった。これに対して、芸術工、医学部では志願者が減少した。芸術工学部の志願者数は、昨春入試で大きく増加した反動から 2 割近くの減少となった。

後期日程の志願者数は前年比 104.2%と増加した。とくに文学部では、昨春入試で志願者が 2 割ほど減少した反動から、前年比 134.8%となった。このほか理学部でも志願者数が前年比 127.5%と大きく増加した。とくに生物学科では昨春の 2 倍以上の志願者が集まった。過去 2 年実質倍率が 2 倍を切っていたため、受験生にとって狙い目と映ったのであろう。

大学別の国公立大の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net (※) にて閲覧が可能となっているのでご利用いただきたい。

※Kei-Net 国公立大出願状況：<http://www.keinet.ne.jp/shutsugan/>